



地域とともにある学校

教頭 豊本 貴世子

11月10日、PTA主催の「木津っ子まつり」が開催されました。前日準備には執行部をはじめ、役員の皆様が来られましたが、協力して手際よく作業されている姿が印象に残りました。思い返せば、1学期からこの「木津っ子まつり」に向けて、各担当の方が学校へ足を運び、机や椅子の数、道具の保管場所の確認等、少しずつ準備を進めておられました。また、飾りや標識等、担当者が家で作って来られたものもたくさん用意されていました。これまで準備を計画的に進めてこられたからこそ、前日の手際の良さにつながっていたのだと気が付きました。また、PTAの方が作成した案内ポスターを地域の様々な場所に掲示していただくようお願いに行くと、「うちも。うちも」と次々に快く声を掛けていただき、増刷するという嬉しい悲鳴をあげる事態にまでなりました。そのおかげで木津っ子まつり当日は、大盛況で普段の学校生活では見られない子供たちの笑顔や地域の方が楽しめる姿がたくさんあふれていました。同日行われた木津公民館まつりにも足を運ぶ方も多くおられ、連合自治会長や公民館長から「木津地区がとても盛り上がった」と言っていただき、「地域とともにある木津小学校」の一員であることに大変嬉しくなりました。

さて、先日、東海北陸7県の教頭が集まる研究大会に参加してきました。分科会では、「地域と学校をつなぐ」というテーマについてグループで話し合いましたが、東海地方の一人が「コロナ禍で子供たちが地域行事に参加することや、地域の方を招いた学習等がなくなり、現在も行っていない。地域とのつながりが薄くなり、本当に子供たちや学校にとってよいのか悩んでいる」と言われました。私は、登下校時に子供たちを見守って下さる地域の方々、夏にグラウンドの草むしりをしてくださった敬老会の皆様、3年生の総合的な学習の時間で「木津大根」について調べるときに進んで講師を引き受けてくださる方々等が思い出され、そのような悩みをもつことなく、地域のみなさんにたくさん協力していただき、教育活動を進められることをありがたく思いました。これからも地域と学校が連携・協働し、子供たちを育む「地域とともにある木津小学校」を続けていけるよう、全力で取り組んでいきたいと思っております。

【木津っ子まつりの様子】

